



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ  

スポーツ振興くじ助成事業

特集 学校施設・公共施設を活用するクラブ

- ▶▶▶ 香南ししまるスポーツクラブ
- ▶▶▶ 那覇新都心ゆいスポーツ・文化クラブ

特別企画 地域を元気にする取組を行うクラブ

- ▶▶▶ NPO法人ひのきスポーツクラブ
- ▶▶▶ スポーツクラブ21わかさの

連載 みんなで盛り上げよう！オリンピック・ムーブメント

- ▶▶▶ 京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
山城ブロック

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

学校施設・公共施設を活用するクラブ

香南ししまるスポーツクラブ ＜香川県高松市＞

総合型クラブが日常的な活動拠点として地域における身近な施設である学校施設・公共スポーツ施設・公民館等の社会教育施設を確保することは、クラブの安定的な活動・運営につながります。

そこで、学校施設・公共施設を活用し、地方公共団体や学校教育機関と連携する事例を紹介します。



1. 中学校体育館内にクラブ事務所設置
→安定した活動拠点を継続的に確保
2. 市からの体育館管理業務委託金は管理事務担当者への謝金にクラブ運営はボランティア
3. 部活動にない硬式テニスをクラブで実施
部員不足解消のため小学生にバレーボール指導も

1 クラブ概要

本クラブは、平成18年1月に高松市と合併した旧・香南町にあります。旧町時代、当時の町教育委員会社会教育主事の指導のもと、町体育指導委員会で総合型クラブについて研修(研究大会の参加・県外視察等)を行い、「我が町にも総合型クラブが必要」と考えるようになりました。高松市との合併を目の前に控えた平成17年6月、町体育指導委員および趣旨に賛同する関係者で設立準備委員会を発足。高松市とも活動場所等について交渉しながら、アイデアを出し合い、同年12月に設立総会を開催しました。

本クラブは、地域住民が自発的にスポーツを楽しみ、各自の健康・体力を増進するとともに、地域社会での交流を広げ連帯を深めることによって、明るく豊かな生活の実現に資することを目的としています。

現在、13種目の定期活動の他、会員以外でも参加できるオープン大会(テニス、キンボール・スポーツ等)や、餅つき、スキーツアー、スプリングウォークといった各種イベントを開催。他にも地域の清掃活動や、香南地区コミュニティ協議会の構成団体として、各種イベント(運動会、夏祭り、文化祭)への参加・協力にも取り組んでおり、香南地区になくてはならないクラブへと成長しています。



2 合併を契機に高松市に学校施設活用を強く要請

本クラブが活用する施設は、主に香南中学校体育館・運動場／香南体育館／香南庭球場／香南地区コミュニティセンターの4か所であり、クラブ事務所は香南中学校体育館の中にあります。全ての施設がクラブ事務所から徒歩圏内という恵まれた環境です。

中学校体育館内にクラブ事務所設置

高松市は、公共施設を高松市スポーツ振興事業団(現:高松市スポーツ協会)が一括で管理しており、高松市との合併に伴って、香南町の施設(香南体育館、香南庭球場等)も同事業団の管轄下に置かれることが決定しました。

そこで、高松市との合併前から、クラブ会長および副会長(体育指導委員)、クラブ事務局の町教育委員会社会教育主事の3名が中心となり、高松市のスポーツ担当部署と、『香南中学校体育館の休日・夜間開放』、『高松市が管理する公共施設の使用』について何度も協議を重ね、「総合型クラブが活用することで、地域住民がスポーツを行える場所の確保と施設の有効利用を兼ねることができる」ことを強く訴えていきました。

それが実り、クラブ設立後は香南中学校体育館に、クラブの事務所を構えることができました。

毎月「施設開放運営委」を開催→学校施設を有効活用

香南中学校体育施設は、平日朝・昼は中学校の授業や運動部活動で使用され、19:00～21:20はクラブが使用料を払って活用しています。会長、副会長、事務員らクラブ側6名と香南中学校教頭の計7名で構成する『香南中学校体育施設開放運営委員会』を毎月開催して、学校行事優先での利用調整を行っており、クラブが大会等で学校施設を特別使用する時は、学校に支障のない範囲で許可を得ています。

高松市から、中学校体育館の管理業務委託金として、年間90万円ほどの委託金がありますが、管理事務担当者への謝金として支払われているので、クラブの運営はボランティアで行われています。



3 クラブの活動が香南地区青少年の健全育成に大きく貢献

地域への効果や影響ですが、クラブ全体の活動により香南地区における青少年の健全育成および体力向上に大きく寄与しています。施設面においては、香南中学校体育館のトイレやロビー、また体育館周辺が建設から十数年経った現在も、綺麗に保たれています。

クラブでは、香南中学校運動部活動との連携として、以下の活動も行っています。

- ・部活動にない硬式テニスをクラブで実施。月～土曜まで毎日2時間、週6回定期活動を行っており、各種大会にも出場しています。
- ・女子バレーボール部の人数不足を補う意味で、小学生を対象に『レクリエーションバレーボール』を開始。3年後には中学総体に出場できる人数を確保できました。

また、会員の30%超を60歳以上のシニア世代が占めており、地域住民の健康維持と介護予防に貢献しています。ニュースポーツのミニテニスやパドルテニスでは80歳を超える会員が気持ちいい汗を流しています。

なお、高松市にとっては、香南体育館、香南庭球場をクラブが定期活動で使用することで、毎月安定して使用料が納付されるといったメリットもあります。

■関係者の声

- ・ 香南中学校 校長

「学校内にはテニスコートがなく、校外での活動が余儀なくされている。

学校と地域(香南ししまるスポーツクラブ)が積極的に関われる環境整備が図られており、子どもたちも伸び伸びと活動している。今後も、双方の連携をより深めていきたい」

- ・ 香南地区コミュニティ協議会 事務局長

「地域住民の健康維持や介護予防に寄与され、地区の運動会、夏祭り、文化祭の3大イベント等の裏方としても、なくてはならない存在である」



4

香南中以外の活動場所・時間帯の拡大を図り、 会員増につなげたい

先述の通り、高松市では現在、高松市スポーツ協会が一括で公共施設の管理を行っているため、総合型クラブが公共施設の指定管理者となることができません。また、学校体育施設も飽和状態であるため、高松市内のクラブにとっては、安定した活動場所の確保が最たる課題となっています。

そのような環境下で、香南中学校体育館の中に事務所を構え、安定した活動場所を確保できていること、また、クラブの実績が評価され、継続的に学校施設および公共施設の使用が認められていることは大変ありがたいと思っています。

一方、公共施設である香南庭球場、香南体育館については、他団体と同様、年間利用計画書を高松市スポーツ協会へ提出し、利用許可を得なければなりません。

会員をさらに増やしていくためには、クラブの活動時間帯の拡大(公共施設の利用時間の拡大)が必要であり、今後、小学校体育施設の利用調整に加わることも検討しています。

また、以下も課題となっております。

- ・運営スタッフの育成(ボランティア運営がいつまで続くか 運営に若者が加わる工夫)
- ・地区住民の加入率の向上(少子高齢化にいかに対応するか)
- ・シニア層対象種目の増加(介護予防の必要性あり)

今後、高松市における小・中学校体育施設の利用方法の見直しについて関係機関にアプローチし、総合型クラブの活性化と新たなクラブ設立に結び付けばと考えています。そして、総合型クラブを通じて、高松市の市民スポーツがより盛んになることを願っています。

(香南ししまるスポーツクラブ 会長 太田 盛廣)



クラブプロフィール

設立年月日 平成17年12月19日

所在地 香川県高松市香南地区

運営 会員数418名(令和元年10月31日現在)、予算規模700万円(令和元年度)

有給職員 6名(中学校体育館の鍵当番5名、広報担当1名)＝非常勤

特徴 香南中学校体育館内に事務所を置き、設立当時から補助金に頼らない受益者負担を基本に、ボランティアスタッフで運営を行っています。
香南中学校体育館・運動場を活動の拠点とし、幼児から高齢者まで400名を超える会員が多種目のスポーツやニュースポーツを楽しんでいます。
近年は、香南中学校区外からの会員が全体の6割を占め、広域的にも必要なクラブになりつつあります。

表彰等 香川県教育文化功労者表彰(平成28年)
文部科学省生涯スポーツ優良団体(平成29年)

連絡先 〒761-1402 香川県高松市香南町由佐1464番地
TEL 087-879-1057(クラブ事務局)、090-8691-8829(会長携帯)
E-mail sports-morimori-320@cd5.so-net.ne.jp
URL <http://kounan.ashita-sanuki.jp/>



特集

学校施設・公共施設を活用するクラブ

那覇新都心ゆいスポーツ・文化クラブ ＜沖縄県那覇市＞

総合型クラブが日常的な活動拠点として地域における身近な施設である学校施設・公共スポーツ施設・公民館等の社会教育施設を確保することは、クラブの安定的な活動・運営につながります。

そこで、学校施設・公共施設を活用し、地方公共団体や学校教育機関と連携する事例を紹介します。



1. 地域と学校側の想い・理念が一致し、学校を拠点とした街づくりにつながる
2. クラブが学校施設運営→融通利く柔軟性がメリット
学校と住民の緩衝材→地域から信頼得る
3. 街を想う理念を大切に、無理なく続けるために法人格は取得せず「ゆるさ」を残す

1 クラブ概要

平成17年・18年に文部科学省の育成指定クラブ委託事業活用を経て、PTCA(Parent Teacher Community Associationの頭文字をとったもの)を主体に小学校を拠点としたクラブを設立しました。当時の学校長の「学校を拠点とした地域コミュニティの形成」への思いが、クラブ設立に大きく影響しています。

PTCA初代会長と初代校長が設立のキーパーソン

拠点とする銘苅(めかる)小学校の歴史が関係しており、同校の開校は2005年(平成17年)。米軍から返還された跡地にできた新しい街と新しい学校で、当初は住民の結束が弱いコミュニティだったそうです。そこで学校を拠点とした街を育てていくという地域の想いと、学校運営に地域の力を取り入れていく学校側の想いが一致し、PTCA初代会長の長堂和男氏(現在クラブ事務局長)と初代校長が、総合型地域スポーツクラブの創設に着手しました。



15定期教室と市民参画イベントも実施

野球、チア・バトン、ハンドボールや三線、お琴、茶道など8つのスポーツ活動と7つの文化的活動の計15の定期教室を開催しています。また、「ゆいフェスタ」と題して学校とクラブの協働により、市民も参画できるイベントを実施しています。このイベント名やクラブ名にも使用している「ゆい」ですが、沖縄方言の「ゆいま〜る」の「ゆい」を採用したのもので、「結い」「協働」という意味があります。精神面や内面的な温かみのある、つながりを表現する言葉でもあります。地域や学校、住民の想いや心の結びつきを表しています。

2 学校長の理念を基に地域コミュニティを形成

学校長の思想により、「学校は地域の共有資産であり、地域の学び場にするべき」との理念を基に、開かれた地域コミュニティの形成に取り組みました。県外視察や行政への働きかけにより、現在の学校を拠点としたクラブ運営が実現しています。クラブは当時の行政との調整にはあまり参画しておらず、どちらかというと学校長により推進されてきました。

3 市の「お墨付き」得て、学校施設活用が円滑化

学校長から行政への働きかけにより、市の「学校体育施設の開放に関する規則」(注)のつと、総合型地域スポーツクラブが学校施設を管理できるよう位置付けられました。

注＝「教育長は、開放校の地域活動の推進を目的とする総合型地域スポーツクラブの代表者に、前項に規定する業務を行わせることができる」

不満持つ利用市民には丁寧に説明

計画段階でのクラブの苦労は無かったのですが、現行の学校施設開放の運営が始まると、利用料金の徴収によって住民の「お客様化」が進行しました。「駐車場が少ない」「学校のトイレが汚れている」など利用者からのクレームが増加したため、学校の特性や理念、受益者負担への理解について丁寧に説明していくことに苦労しました。

一方で、業務は増えましたが、施設管理で170万円程の収入を得ています。9割は管理スタッフへの報酬で消化しますが、活動場所の確保と住民や他団体との接点を得られることが利点です。



4 クラブが学校と市民の緩衝材に

【学校施設活用による2大メリット】

- ①利用者ニーズへの柔軟な対応が可能となり、利用者にとって融通が利くという点。
- ②クラブが学校と住民の緩衝材としての機能を果たし、信頼を得られる点。

公的機関による管理では時間外対応が困難ですが、クラブではあらゆる案件に柔軟に対応していきます。そのため利用者からは予約や施設・備品の受け渡しが容易になり、喜ばれています。

また、学校が行事を行う際、一部の近隣市民から否定的な意見により学校行事を中止するケースもありました。その際、クラブ主催事業へと位置付けを変換し、クラブが学校行事の実現に向けて協力することもあります。クラブは住民主体で構成された地域の団体のため、一般市民からの批判や接し方も緩和されるところも強みであり、これが緩衝材としての機能です。

なお、同市の学校体育施設管理の9割は行政から委嘱された管理人が担っていますが、施設貸し出し管理だけを担っている体制では、ここまでの対応はできないと思います。

その根底には、学校を拠点とした地域コミュニティを形成するという共通理念が学校側と地域側双方にあるため、柔軟性だけでなく、時には批判を恐れずに突き進める判断力や行動力となって表れています。

5 利用ニーズの分散化・均等化を図り課題解消へ

増加する学校施設の利用ニーズを満たせていないという課題があります。一般利用者へ拠点施設を明け渡すために、クラブでは近隣学校で定期教室を行うこともあります。今後は民間施設の活用も視野に入れ、利用ニーズの分散化・均等化に向けて取り組んでいこうと考えています。

無理なく「ゆるさ」重視

これからも良好な地域コミュニティの形成を目指していきます。人と人、人と団体、人と地域がつながる機会や接点をつくるのが、クラブの立ち位置なのだと思います。

なお、後継者育成やクラブ継承については深く考えていません。街を想う気持ちは増す一方なので、無理なく続けられる「ゆるさ」を重視しています。そのため法人格は取得せず会社化しないよう「ゆるさ」を残してきました。大事なことは「街を想う理念が住民へ受け継がれていくこと」だと考えています。

(沖縄県体育協会 クラブアドバイザー 座間味 洋貴)





クラブプロフィール

設立年月日 平成20年1月20日

所在地 沖縄県那覇市銘苅2-3-20(那覇市立銘苅小学校内)

運営 会員数250名(平成30年3月現在)、予算規模470万円(平成30年度)

有給職員 2名

特徴 小学校を拠点にスポーツ少年団や各種団体を組織した総合型地域スポーツクラブです。学校施設の管理も担い、住民と学校の橋渡しや学校を中心とした地域コミュニティの形成を目的に、スポーツから文化的活動まで幅広く展開しています。

連絡先 〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅2-3-20

TEL 070-5696-6440

E-Mail nagado29@gmail.com



特別企画

地域を元気にする取り組みを行うクラブ

NPO法人ひのきスポーツクラブ

<福島県南会津町>

地域活性化に寄与することを目的にした公益的な事業を実施することは、地域におけるクラブの存在意義や価値を高め、クラブの自立・自律に向けた活動を促進することにつながる可能性があります。

そこで今回は、地域を元気にする取り組みを行うクラブを紹介します。

1 クラブ概要

少子高齢化が進み、世代を超えた顔の見える関係が薄れゆく地域に危機感を抱き、「子どもからお年寄りまでスポーツを通して『いきいきした桧沢地区』を目指す」を理念に掲げ、まだ行政主導によるクラブ設立が多かった時代に、地域内のスポーツ関係者はもとより、学校、老人クラブ、婦人会、区長等を巻き込み、文字通りの住民主体によるクラブ設立に動きました。多くの主体を巻き込んだクラブづくりに2年の歳月をかけ、平成14年に地名を使った「ひのきスポーツクラブ」は誕生しました。その当時、国内にもまだ数少ない総合型地域スポーツクラブを過疎化が進む小さな地域に設立するにあたり、その効果や必要性を広く周知することに相当な労力を使いました。それでも、設立準備段階から多種多様な主体を巻き込んだこと、一定の準備期間を経て設立したことで、クラブ誕生時から地域間・多世代交流事業や学校と連携した学校支援事業等、スポーツを超えた地域活性化事業は順調に進みました。

クラブ設立から5年が経過した平成19年には、設立時から変わりゆく地域情勢、クラブに対するニーズの変化をクラブ運営に反映するため、再び地域住民を巻き込み「桧沢地区元気計画策定ワークショップ」をスタート。1年の策定作業を経た後に「桧沢元気計画」を策定し、同時に地域区長とともに「桧沢地区元気地区宣言」を行いました。これが、地域を巻き込み元気をつくる当クラブの基盤をより強固にし、さらには地区公民館の指定管理等、様々な事業が行政から委託されるきっかけにもなりました。



2 世代・地域を超えてスポーツを楽しむ交流事業等を実施

「地域の子どもは地域の大人が育てる」という理念に基づき事業を展開

地域課題を解決するために、「地域を活性化するためのクラブ」として設立した当クラブだからこそ、設立当初から地域を元気にする事業を行うことは、クラブ最大の使命でもありました。特に住んでいる地域を超え、普段共に活動する世代を超え、一堂に会しスポーツを楽しめる世代間・地域間交流事業の開催や、将来の担い手である子どもたちに対し、スポーツや文化活動はもとより、地域の魅力に触れる野外活動を地域の大人が伝える‘ひのき型地域教育力向上事業’は最も力を入れてきた事業でもありました。当クラブには「すくすくひのきプラン」という計画があり、その中で掲げている「地域の子どもは地域の大人が育てる」という理念に基づき、同教育力向上事業を実施しています。

これらの事業に共通することは、様々な事業を通して顔の見える関係を広げていくことにあり、かつては当たり前地域に存在し機能していた共同（協働）の復活こそが私たちクラブが追い求めているものといえます。

3 「自然」と「人材」を活用した事業で地域を元気に！

地域の人材を巻き込み、子ども向けに各種イベント

今回のテーマである「地域を元気にする取り組み」の実践として、当クラブでは資源活用を重視しており、その中で「自然」と「人材」の2つの資源を活用した事業を展開しています。当クラブがある桜沢地区は、周囲を田畑や山・川に囲まれた自然豊かな田園風景が広がる地域です。その中で暮らしている子どもたちに、自然に触れ合う野外活動を提供する一方で、その活動には必ず多くの地域の大人を巻き込む工夫をしています。一例を挙げると、農業組合との共同による「棚田で虫キング決定戦！」では、その田んぼで作られたもち米を使って地元の高齢者の皆さんにお萩を作ってもらうコラボや、地域にいる若者を事業運営に巻き込み、子どもたちにイワナのつかみ取りや川遊びを伝える「川ガキ清流バトルロワイアル」、地区全域を使い田畑を走り回る「7時間耐久鬼ごっこ」等、自然・人材という資源を活用した事業によって地域に活気を生む活動の実践に挑戦し続けています。



■ 棚田で虫キング決定戦

クラブの子どもたちが棚田に繰り出し、虫捕りを行う事業です。毎年農業組合の協力(コラボ)により実施しています。当クラブは他団体との連携、様々な人を巻き込むことを重要視していますので、先の農業組合のほか、地元のおばあちゃんにも「お萩を作って参加している子どもたちに振る舞う」という形で事業に参画していただく工夫をしています。

■ 川ガキ清流バトルロワイアル

子どもたちを川に連れて行き、思い切り遊ばせる事業です。暮らしのすぐ近くに綺麗な川、魚がたくさんいる川があるにもかかわらず、学校で禁止しているために、今の子どもたちはそんな川に行くことができません。そんな子どもたちを川に連れ出し、イワナのつかみ取りや飛び込み等をさせ、楽しませています。かつてクラブの野外活動で育った子どもが大人となって遊びのリーダーとなっています。

■ 7時間耐久鬼ごっこ

昔のように「朝から晩まで駆け回る」ことをイメージして、集落全部を使った鬼ごっこです。午前10時の開始から参加者の子どもたちは集落内の民家や田んぼ、畑等、ありとあらゆる所に逃げていきます。午後5時まで逃げ切れた者(参加者)が勝ちで、全員つかまえたら鬼の勝ちです。地域に残る若者や、かつて逃げ回った参加者の子どもが成年になり、今は鬼となって参画しています。鬼に捕まった参加者にはクラブオリジナルの「鬼T」がもらえ、同時にその「鬼T」を着て今度は鬼となって、まだ捕まっていない参加者を捕まえます。早く捕まっても最後(5時)まで楽しませる工夫をしています。



4

子どもたちの元気な声が地域に復活 →新たな人材育成という効果も

著しく進む少子高齢化は、クラブ設立以降に1小学校・1中学校を閉鎖に追い込み、地域内に多くの核家族世帯を生み、日常的にあった交流風景や子どもたちのはしゃぎ声を地域内から消しました。このような状況下でクラブが展開する元気づくり事業によって、「久しぶりに孫に会うようだ」「久しぶりに子どもたちの声が響いて賑やかだ」といった声を活動現場から多く聞かれます。また、活動に参加した子どもたちは身近にあり気付かなかった自然の魅力に触れ、その積み重ねの中で育った子どもが成年になり、今度は野外活動のリーダーになるといった新たな人材の育成にもつながっています。

農業・野外活動・民宿のコラボでグリーン・ツーリズム事業



収益効果のある野外活動に発展

このような地域資源を活用した元気づくり事業に経営の視点を取り入れ、平成17年から農業×野外活動×民宿を組み合わせたグリーン・ツーリズム事業を全国に先駆けて着手。これが足掛かりとなって、会員以外・居住者以外も参加する収益効果のある野外活動へと発展させました。同事業の実施にあたり、単なる一つのスポーツクラブが農家や民宿経営者を巻き込んだことが、成功の要因となっています。また、「農家は農業体験の提供、民宿は参加者を受け入れる」、これをクラブがマネジメントして一つの形にしたことも特徴として挙げられます。

被災地の子どもにも野外活動の場を提供

平成23年には東日本大震災が発生してしまいましたが、幸い当地域、当クラブは福島県内にあっても実被害がなかったこともあり、自然から引き離された同じ福島の多くの子どもたちに自然の中で目いっぱい駆け回ってもらおうと、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレンや福島大学と連携した「南会津冒険王」という新たな野外活動を立ち上げ、数年に渡り被災者支援活動にも取り組んできました。



5 純公益事業を継続するためにも、収益活動は不可欠

行政からの委託事業でクラブ経営の安定化を図る

地域に元気をつくる事業はクラブ経営の視点で見れば収益を生まない純公益事業といえます。この収益を生まない事業を長きにわたり安定的に継続していくには、一定の収益を生む活動を別途展開しクラブ経営の安定化を図る必要があります。当クラブでは、学校へクラブスタッフを派遣する「元気キッズ事業」や地域に多く抱える高齢者の介護予防に取り組む「介護予防コーディネートステーション事業」等、行政から多くの委託事業を受けながらクラブ経営の安定化を図っています。

今後も求められる経営力と現場のマネジメント力

企業のメセナ活動同様に、一定の収益を上げる一方で地域が求める地域に元気を生む公益的な活動を提供していく。それを実現する経営力と現場のマネジメント力が、今後も求められていくと思っています。

(NPO法人ひのきスポーツクラブ ゼネラルマネジャー 湯田 賢史)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成14年5月17日

所在地 福島県南会津郡南会津町桧沢地区

運営 会員数名1,423人(令和元年10月現在)、予算規模1,600万円(令和元年度)

有給職員 8名

特徴 豊かな自然に囲まれた小さな地域にある小さなクラブです。少子高齢化が進み、地域にある小・中学校が相次いで閉校になる中、地域の資源を活用し様々な活動を展開しています。
クラブハウスなし、予算なしの中、地域住民だけでつくり上げたクラブが、今や職員8人、予算規模1,600万円のクラブに成長しました。

連絡先 〒967-0023 福島県南会津郡南会津町福米沢字宮ノ前1381番地
TEL 0241-62-0724(FAX兼用)
E-mail hinokisports-m.seya@outlook.jp
URL <https://www.facebook.com/HinokiSC/>



特別企画

地域を元気にする取り組みを行うクラブ

スポーツクラブ21わかさの ＜兵庫県相生市＞

地域活性化に寄与することを目的にした公益的な事業を実施することは、地域におけるクラブの存在意義や価値を高め、クラブの自立・自律に向けた活動を促進することにつながる可能性があります。

そこで今回は、地域を元気にする取り組みを行うクラブを紹介します。

1 クラブ概要

設立背景

スポーツを通じて三世代間で交流をし、地域密着型のスポーツクラブができないかという観点からクラブ創設に動き出しました。クラブ活動を通じて、子どもたちにルールを守ることの大切さや社会のルールやマナーを体得させることを目的にしています。

クラブの理念

- ・他の機関・団体などが開催する大会等への参加
- ・会員相互の親睦を図るための交流行事の開催
- ・地域住民のスポーツ活動や地域づくりに資するボランティア活動の実施

現在までの経緯

発足当時は多種目のスポーツ、元旦登山(宝台山)、料理教室、ロボット教室等を実施していましたが、参加人数の減少によりグラウンドゴルフ、ゲートボール、ソフトバレー、野球に絞られました。

現在の活動状況

- ・グラウンドゴルフ、ゲートボールの月例大会
- ・ソフトバレー、野球
- ・どろんこフェスティバル(7月海の日の前日に開催)



2 「親子そろって泥まみれ」をテーマに地域活性化

地域の特性を生かした事業ができないか検討しているときに、他の市町村で泥んこバレー大会を運営していることを知り、当クラブに持ち帰り、休耕田を活用し多種目にわたる「どろんこフェスティバル」を開催することにしました。

「親子そろって泥まみれ」をテーマに地域の活性化・会員相互の親睦を図ることを目的にしています。どろんこ遊びを通じて、子どもたちが自然の素晴らしさを体験し、地域の方々とも触れ合う機会を生み出すことで、子どもから大人までが泥んこになりながら競技に参加しており、観ていても楽しいイベントになっています。

筆者である山本の役割をご紹介します。地元企業から協賛を得るため各企業を回るだけでなく、どろんこ運営委員会を開催し大会に向けてのスケジュール調整を行うとともに、資料・大会プログラムの作成、相生高校ボランティア生徒への競技運営上の役割説明など多岐な役割を担っています。また、大会に備えて草刈りや石拾いをやり、当日は審査委員として関わっています。

3 休耕田を活用し「泥んこフラッグス」等を実施

「どろんこフェスティバル」を開催するにあたって、地域の特性を生かすため、休耕田を活用することにしました。大会半年前に、耕作をしていない地域の人にお願ひし、同時に水利責任者にお願ひして水の確保をお願ひしています。相生市の行事と競合しないように日程調整し、競技種目については5種目程度とし、朝9時から午後1時くらいまでに大会を終えるよう計画しました。メインとして、泥んこフラッグス、泥そりレース、1本橋渡り、障害物競争、しっぽとり鬼ごっこを企画しました。また選手が泥まみれになるため特設シャワーを設置しました。



大玉転がし



泥んこフラッグス



地元の幼稚園、小学校、中学校、高校、企業と連携

フェスティバルの認知度がなかったため、市内の幼稚園、小学校、中学校、高校にポスターと参加申込書を配布し、行政や市内の主な企業にポスターの掲示を依頼しました。結果として他府縣市町村からも多数の人が参加してくれました。幼稚園、小学校、中学校については、普段から学校行事の美化作業等の行事に参加したり、幼稚園、小学校の評議員になったりすることで学校と連携しています。高校については、学校の方針としてボランティア活動を推進していることから、5年くらい前から協力してもらっています。

大会運営にあたりスタッフの確保は不可欠で、幼稚園の先生、小学校の先生・PTA、相生市交通安全協会若狭野支部の方、相生高校の生徒、地域有志の方々からの協力を得て、現在は一つの地域の行事として支えてもらっています。スタッフの役割は、選手召集、選手誘導、競技進行、受付、審査員、カメラマン、救護、シャワー係、見回り、司会、安全対策としての交通整理などで、今大会は56名(各回50名～60名)がスタッフとして参加しました。

プログラムの作成において、特に泥んこフラッグスの組み合わせに苦労しました。同種目は3～4人で数十メートル先の旗を取り合う勝ち上がり戦。低学年、高学年、中学生以上の3クラスに分かれて実施しますが、男女差を考慮したり、少しでも学年の低い子どもでも勝ち上がれるよう組み合わせを作成するのが大変でした。



事前の最終打合せ

地元企業から協賛金募り運営が軌道 今年で16回目の人気イベントに

運営基金ですが、初年度(平成15年度)はクラブ運営費で賄いましたが、2年目からは企業の方から「協賛金を募ってやればどうか」とのアドバイスをいただき、地元企業に協賛を依頼し大会を運営しています。おかげで第16回目の開催を今年度迎えることができました。

「どろんこフェスティバル」の関心を高めるため、競技ごとの表彰(優勝者、2位、3位)だけでなく、特別賞(どろんこ大将、ユーモア賞、審査員特別賞、アベック賞)も設けています。しっぽとり鬼ごっこについては、大人がしっぽを着け、子どもがしっぽを取って賞品と引き換える方式を採用しています。ただ、特別賞の賞品を決めるにあたって、子どもや大人が喜ぶものを選定するのに苦心しています。

大会を通じて、会員や地域の人、各団体間の親睦や連携が図れることに加え、子どもから大人まで心から喜んでくれる笑顔が素敵で、「どろんこフェスティバル」を開催して良かったと思っています。



次回開催に生かすため大会当日に反省会

大会当日に反省会を開催し、「良かったこと」「悪かったこと」を取りまとめて、次回の開催に向けての委員会で再確認し、より良い大会が開催できるようにしています。また、参加申込書のデータを基にグラフ化することで、市町村別、市内の地区別の参加者数を分析し、次回の大会に向けて取り組むようにしています。

しかし、一般アマチュアカメラマンのマナーの悪さが目立つのが大きな問題点です。イベント関係者以外の方が会場に立ち入り写真撮影したり、運営に支障をきたす行動を取るカメラマンもいます。これをどのように取り締まり、対策を取るのかが悩みの種です。イベントの公式カメラマンや報道陣には腕章の着用をお願いするようになりましたが、毎回のように問題となっています。

4 地域・クラブ・会員等への効果や影響

ボランティア活動の高校生から勇気と感動→役員への励みに

■役員・スタッフの声

- 相生高校の生徒には、活動記録として役割、設定目標、設定目標達成度、行動の積極性、仲間への協力、成長できた点などの感想を個々に提出してもらっています。次回開催に向けての大切な意見でもあり、これにより勇気と感動をもらい受け、役員一同の励みにもなっています。
- 「どろんこフェスティバル」を通じて地域・学校・各団体・企業との連携ができました。
- 地域のイベントとして定着できました。
- 当クラブの取り組みを参考にし、他の市町村でも「どろんこフェスティバル」を開催してくれています。
- 少しずつイベントの認知度が高まってきました。



しっぽとり鬼ごっこ



泥そりレース



■スタッフとして参加した高校生ボランティアの声

「僕たちが準備したりしているもので、あんなにも子どもたちが楽しそうにしてくれたことに気づき、裏方の仕事の楽しさ、そして大切さにも気付くことができました」(競技進行担当)

「最初は自分の役割をしっかりとこなせるか不安でした。しかし、大人の方がサポートしてくれたおかげでスムーズに競技を進行し運営を行うことができました。また、自らも競技に参加することで、ボランティアの楽しさと地域の温かさを知ることができました。この経験は今後の生活にとって大切なものになると思います。ボランティアを通して自分の人間性を高め、社会・地域に貢献し、多くの人たちと触れ合い、様々な経験を積んでいきたいと思いました」(競技運営担当)

「最初は会場の空気感が分からず戸惑うことも多かったのですが、先生に教えてもらったり、実際に競技に入ると場の空気を楽しんで放送することができました。レースに対する実況だったり、その場ですぐに言わないといけないことになると焦って噛んでしまったり、日本語が変になってしまったのが悔しかったです。また、私が他のボランティアの高校生に無茶振りしたにもかかわらず、それに応えてくれて、会場を沸かせたことが印象深かったです。今回、大変盛り上がった「どろんこフェスティバル」に微力ながら力添えできたのが嬉しかったです」(場内放送担当)



場内放送



高校生ボランティア



選手宣誓



1本橋渡り競走



5 「クラブ役員の高齢化」「若手への継承」が今後の課題

クラブ役員の高齢化が進み、若い人いかに引継ぎをしていくかが課題です。今後、地域に愛される活動を続け、今まで以上に積極的に地域行事に参加し親睦と連携を図っていきたいと考えております。また、子どもたちには、より一層スポーツに関心を持ってもらいたいです。

(スポーツクラブ21わかさの 顧問 山本広和)

クラブプロフィール

設立年月日 平成14年3月31日

所在地 兵庫県相生市若狭野町八洞185

運営 会員数52名(平成31年4月1日現在)、予算規模305万円(平成30年度)

有給職員 0名

特徴 若狭野小学校区は相生市の西部に位置し、国道2号線とJR山陽本線を挟んで東西に広がる田園に囲まれた緑豊かな農村地帯です。かけがえのない自然と地域の方々の暖かい思いやりが常に次代を担う子どもたちに向けられています。三世代交流を図りながら体力を保持・増進するとともに、相互の親睦を図り、地域の社会の連携と明るく豊かな生活の実現に資することを目的とし、学校・地域行事に積極的に参加しています。

連絡先 TEL 090-1444-4578(山本広和)
E-Mail hirokazu.yamamoto@leto.eonet.ne.jp (山本広和)





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

東京2020参画プログラム 認証事例紹介

京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 山城ブロック

オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が東京2020参画プログラムとして実施したオリンピック・パラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

1

企画経緯

8クラブの協働で山城ブロックの事業に発展

2014年に「『3.11 忘れない』あなたにもできることが、きっとある」と題し、東日本大震災の追悼と世界平和への願いを込めたプロジェクトとして総合型クラブから全国各地へ発信されました。このプロジェクトはクラブ単位で実施されていますが、京都府では1クラブでこの事業を実施することは難しかったため、8クラブが協働して山城ブロックの事業として実施することで可能となりました。そして、2018年度は山城ブロックで企画・検討を重ね「追悼」・「復興支援」に加え「被災時に対応できるスキルを身に付ける」ことを目的とし発展的に事業を継続しています。

また、これとは別事業で支援学校と連携・協力して、障がいをもった子どもたちと一般の方とが分け隔てなく参加できる「ポッチャDE祭り」というポッチャの交流大会を実施しています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックが間近に迫ってきていることもあり、パラリンピック競技であるポッチャと復興支援事業であるこのイベントを繋ぐことで、復興五輪といわれる東京オリンピック・パラリンピックを契機に更なる広がりが出てくるのではないかというアイデアがあり、東京2020参画プログラムに申請するに至りました。



2 企画内容

地域住民の防災意識を高める事業
災害時の対処法等の講習を実施

- 防災バッグを作ろう
- 救命・AED講習
- 健康運動教室
- 黙とう・シャボン玉セレモニー



〈目的〉

近年、日本は豪雨や台風、そして地震など多くの災害に見舞われています。いつ襲ってくるかわからない自然災害に直面したときは、被害を最小限にとどめ、落ち着いて正しく判断し行動することが大切です。日頃から防災への意識を高めることで、隣近所や高齢者世帯に声を掛け合うことができる「地域づくり」と「防災」について考え、総合型地域スポーツクラブができる共助、一人ひとりができる自助について共に考える機会をつくれます。

クラブが協働することにつながりを広げ、総合型地域スポーツクラブの活動の充実と質の向上及び活性化を図ることを目的としています。

〈事業コンセプト〉

- (1) 地域スポーツクラブのネットワークを構築し、地域住民の防災意識を高める。
- (2) 災害時に被災者の心身のケアや健康維持ができるスポーツプログラムの紹介を行う。
- (3) スタッフと参加者が一緒になって災害時に対応できるスキル等の研修を行う。

〈内容〉

災害時の対処法をテーマに5人の講師を招いて、災害に役立つ豆知識講習コーナー、救命・AED講習コーナー、災害時の運動教室、ポッチャ体験コーナーの4つの講習を実施しました。災害に役立つ豆知識講習コーナーでは新聞紙を使って紙食器を作ったり水が使えなくなった場合を想定してゴミ袋と乾燥剤を使って非常用トイレを作ったりしました。救命・AED講習コーナーでは赤十字救急法救急員による講習が行われました。災害時の運動教室では災害時を想定して道具を使わず笑いを交えて楽しく行われました。ポッチャ体験コーナーでは体育館ではない地面の凹凸もまた別の面白みが出て、子どもたちにも人気でした。

14時46分には、参加者全員で全国の災害に見舞われた被災者に向けて黙禱を行いました。また、今年度も企業を招いて、災害時でも活用できる浄水器の紹介コーナーを設けました。



〈スケジュール〉

9:30 スタッフ集合、打ち合わせ及び会場設営

11:00 開会式

主催者挨拶・クラブ紹介・日程説明・講師紹介・企業協力紹介

11:15 (1) 災害に役立つ豆知識講習コーナー

- ①防災バッグ作り
- ②紙食器作り
- ③簡易トイレの作り方

13:00 (2) 救命・AED講習コーナー

救急車が来ない前提での処置方法、救助→救命の流れ

- ① 身近な人の命を守ろう
- ② 心肺蘇生とAED

13:45 (3) 災害時の運動教室「限られた場所での運動」

椅子に座ってストレッチ等＝エコノミー症候群を防止

(4) ボッチャ体験コーナー

山城ブロックが支援学校と連携し大会を実施しているボッチャの体験会

14:00 閉会式

セレモニーと黙とう

会場の皆さん全員でシャボン玉に想いを込めて黙とう

15:00 終了・片づけ



紙食器作り



非常用トイレ作り



心肺蘇生とAED体験



災害時を想定した運動教室



3 参加者・運営側の声

参加者の声・反応(実施後)

会場である山城運動公園には、一般来園者の親子連れが多く、チラシを配っての呼びかけも行われました。このイベントを目的として来園されていない方々は参加することに躊躇(ちゅうちょ)されていましたが、ポータブルトイレがいくつも置かれている光景を目にして興味を示され参加される方や、救命・AED講習コーナーでは真剣に講習を受けられる方の姿が見られました。また、災害時の運動教室では、「広い公園内で椅子に座ってする運動は気持ちがいい」という声がありました。ポッチャ体験は子どもたちに人気があり、とても楽しそうに体験していました。

運営側の声(実施後)

- ・ 反省点としては、来園者が少なかったことが一番に挙げられます。当日までの期間に各クラブから広報を行っていましたが、広報時期が遅かったことと、各クラブでチラシの印刷を任せていたこともあり、広報活動が不足していたことが反省点となりました。チラシの印刷はまとめて業者に発注し、早めのPRと広く一般への広報が必要でした。
- ・ 参画したクラブの会員が参加しやすいような工夫ができていれば良かったと思います。一般府民向けにPRするだけでなく、もっと身近なクラブ会員に多く参加してもらえる企画も考えていきたいです。
- ・ 当日、4つのコーナーのうち3つを専門家の講師にお任せしたことで、運営スタッフである自分たちもそれぞれのコーナーで防災について学ぶことができとても良かったです。
- ・ 黙とうの際にシャボン玉を使いましたが、子どもたちがとても興味を示し賑わったことから、来年度は黙とうの際だけではなく、人を引きつけるための手段として活用してみたいです。
- ・ 子どもには興味を引くものがあつたようですが、大人には「何をやっているのかなあ」という冷やかな様子も見られたので、大人を引きつけられるような工夫も考えていきたいです。例えば、体験先着〇〇名様に防災グッズプレゼント等の推し方も良いかもしれないと思います。
- ・ 今回で4回目の開催になりますが、今回の内容はとても良かったと思います。このイベントが「行ったら、たまたまやっていたイベント」ではなく、このイベントを目的に来てくれる人を増やしていきたいです。



ポッチャ体験



シャボン玉に想いを込めて黙禱



4 各ブロックの事業が充実し、結束も強化 更なる自立に向け事務局移行も検討

総合型クラブが主体になることで、各クラブ間の関係性を活かし、いざというときに迅速にクラブが連携して取り組みを行うことができるネットワークを構築できました。

被災者の心身のケアや健康維持ができるスポーツプログラムの体験、救命・AED講習、限られた場所で行える運動教室、パラリンピック種目であるボッチャ体験など、様々なプログラムを体験することで災害時に取り組みができるアイデアを得ることができました。実際に災害が起こったときに地域で対応できる力を身に付けられるよう、今後も継続してこのような事業を実施していきます。

また、京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会としては、今年で新体制になって5年目を迎え、各ブロック内での結束が強化され、それぞれのブロックの特徴が発揮された事業が多く生み出されるようになってきました。現在、同協議会の事務局は府スポーツ協会が担っていますが、今後更なる自立に向け事務局の移行も検討されています。

山城ブロックでは、ブロック事業を展開した結果①～③の事業方針がまとめられました。

- ①本事業を通じてクラブ間の連携を図る。
- ②本事業を通じて新しい事業モデルを発信し、各クラブの事業力向上を図る。
- ③本事業を通じて総合型地域スポーツクラブの啓発に努める。

現在、5年前には想像も出来ないほど自主的な活動ができてきています。今後も各ブロックの事業を継続して実施していくことでブロックの発展、京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の発展を目指し、ひいては一番大切な各クラブの発展に繋げていければと思います。

(京都府スポーツ協会クラブアドバイザー 勢子 由紀子)



■参画プログラムとは■

東京2020大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン：「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト：「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

この大会ビジョンとコンセプトを基に、日本国民の方々が、東京2020大会に参画(アクション)し、そのアクションの成果を未来につなげていく(レガシー)ことを目指し「アクション&レガシープラン2016」を策定しました。そして、このプランを達成するために、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会に向けた参画・機運醸成等に向けた「アクション」を実施できる仕組みが「参画プログラム」です。

「参画プログラム」には「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、地域の非営利団体等を対象とし、より多くの方々が参画できることを目指すものが「応援プログラム」です。

応援プログラムの具体的な申請方法等については、[コチラ](#)



【東京2020応援マーク】

連絡協議会プロフィール

設立年月日 平成17年5月29日

所在地 京都府

特徴 平成27年度から運営委員会が設置され、連絡協議会の自立に向けて取り組んでいます。地域別に4ブロックに分かれており、それぞれのブロックで自主的に企画・運営し事業を実施しています。ブロックでの事業を活発に行うことによりクラブ同士の横のつながりが強化され、情報や知識を共有することで各クラブの発展につながっています。また、連絡協議会自体の体力を付けるための方策として、グルメリレーマラソンなどの収益事業も実施しています。

連絡先 601-8047 京都府京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館3階
公益財団法人京都府スポーツ協会内
TEL 075-692-3423 FAX 075-692-3457
E-mail club-info@kyoto-sa.com(代表)
URL <http://sports-net.kyoto-sa.com/>





助成金情報

令和2年度スポーツ普及奨励助成事業

[実施団体] (公財)スポーツ安全協会

法人格を有するスポーツ・レクリエーション等生涯スポーツ関係団体(営利法人を除く。)が主催する、全国・ブロック単位で行われるスポーツ・レクリエーション大会等の開催費用の一部を助成するものです。

[申込期間] 2020年1月20日(月) 必着

申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送します。

<https://www.sportsanzen.org/index/Info/info-20191001.html>

ノエビアグリーン財団 2019年度助成事業

[実施団体] (公財)ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、心身ともに健全な青少年の育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

[申込期間] 2019年12月2日(月)～2020年2月28日(金)

団体と個人で応募できます。電子申請サポートシステムにより応募を受け付けます。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>

ヨネックススポーツ振興財団 2020年度助成金

[実施団体] (公財)ヨネックススポーツ振興財団

助成金交付対象は、青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励または自ら行い、かつその活動を3年以上継続して実施している団体とします。

[申込期間]

前期 対象期間:2020年4月～9月および2020年度の年間を通じた事業

申請期限:2019年12月20日(当日消印有効)

交付決定:2020年2月28日(予定)

後期 対象期間:2020年10月～2021年3月の事業

申請期限:2020年6月20日(当日消印有効)

交付決定:2020年8月31日(予定)

様式をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送します。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

「健幸華齢のためのスマートライフ」書籍情報

多くの人々が身体的・精神的・社会的なフレイル化への移行を阻止し、心身の両面で良好な状態をできるだけ長く維持できることを願い、スマートライフのあり方について解説した書籍です。本書籍では、運動・食事については、一般論だけでなく、効果的で魅力のあるプログラムを紹介していますので、ぜひご覧ください。

書籍目次や購入についてはこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid777.html#kanren11>

「健幸華齢のためのスマートエクササイズ講習会」講師派遣

健幸華齢の実現ができる地域づくりに取り組みたい地方公共団体や、都道府県体育・スポーツ協会、その他健康・スポーツ関係団体等を対象に、スマートエクササイズを普及する講習会、スマートエクササイズを普及するリーダーを育成する講習会が開催できるよう講師を派遣しています。

講師派遣概要はこちらから

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R1/MM147_karei.PDF

イベント情報

「体育・スポーツにおける多様な性のあり方」講習会

体育・スポーツにおける多様な性のあり方に関する知識提供を行うとともに、LGBT等のセクシャルマイノリティの当事者や、スポーツ指導者が抱える困難さや課題の実態把握をさらに進めていくことを目的に開催します。

当日は、自身に「彼女」がいることを公表している下山田志帆選手(スフィード世田谷・サッカー)をお招きし、現役アスリートと専門家の対談を行います。

その他、多様な性のあり方に関する最近の国際情勢や、スポーツ指導者の意識調査の結果、スポーツ関係団体が実施している先進事例などを紹介します。

日 時	令和元年12月21日(土)
会 場	JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 14階 岸清一記念メモリアルルーム
受講料	2,200円(資料代税込み)
申込締切	12月6日(金)

開催概要・参加申込はこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid1242.html>

生涯スポーツ・体力づくり全国会議2020開催

本会議では、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討します。

主催	スポーツ庁／生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会	
日時	令和2年2月7日(金) 10:00～	
会場	松江しんじ湖温泉 ホテル一畑	
参加費等	参加費	1人2,000円(資料代込み)
	弁当代	1人1,200円(希望者のみ)
	情報交換会会費	1人5,000円(希望者のみ)
申込締切	12月20日(金)	

開催概要はこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/about/event/zennkokukaigi/tabid200.html>

参加申込はこちらから

<https://req.qubo.jp/lifelongsport20/form/entry>

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会開催

日本スポーツ協会(日本スポーツ少年団)が平成26年度に作成した、幼児及びその保護者等を対象にした活動プログラム「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の効果的な活用法を周知することを目的に、地域のスポーツ少年団関係者等を対象とした講習会を開催します。

開催概要・参加申込はこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/club/tabid1061.html>

令和元年度公認スポーツ指導者競技別研修会 「グッドコーチング・スキルアップ研修」

スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードのもとスポーツ活動現場において指導対象者やアントラージュとのより良い関係を構築するとともに、その対象者や状況等に応じた知識・技能を活用できる実践力を高めることを目指し、全国5会場で研修会を実施します。

開催概要・参加申込はこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid241.html>

令和元年度 Japan Sport Convention -JSPO加盟団体経営フォーラム開催

スポーツ団体が、高度化・専門化する法人運営に適切に対応することを通じて、社会から期待されるインテグリティ(誠実性・健全性・高潔性)を実現することを目的に、スポーツ団体の運営に関わる役職員を主な対象としたフォーラムを開催いたします。

法人運営の足元を固め、すぐに実務に活かせるワークショップ形式の「法人運営」と、スポーツ団体の将来を構想するための講演・パネルディスカッション形式の「イノベーション」をテーマに設定しています。多くの方のご参加をお待ちしております。

主 催	公益財団法人日本スポーツ協会
協 力	公益財団法人JKA
日 時	令和2年3月17日(火)・18日(水)
会 場	グランドプリンスホテル高輪
参加費	一般参加者5,500 円(税込/資料代・1 日目昼食代含む)
申込締切	令和 2 年 2 月 28 日(金)
	※参加の可否については令和 2 年 1 月以降、郵送でご連絡いたします。

開催概要・参加申込はこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid1234.html>

令和元年度生涯スポーツ功労者が決定しました!

生涯スポーツ功労者表彰は、国が地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツ振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者を表彰するものです。今年度は生涯スポーツ功労者163名、生涯スポーツ優良団体117団体が決定され、日本スポーツ協会からは総合型地域スポーツクラブ育成指導者として9名を文部科学省へ推薦し、「生涯スポーツ功労者」として決定されました。

生涯スポーツ功労者一覧については以下のURLを参照ください。

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4050>

スポーツ庁からのお知らせ

スポーツ庁「第3回パブコン～もしもあなたがスポーツ庁長官だったら～」
国民のスポーツ実施率向上のための事業プランの公募

スポーツ庁では、第2期スポーツ基本計画において、成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度とする目標を掲げています。

その達成に向けて、あらゆる方策を検討し実行するとともに、国民がスポーツに親しむ機運を醸成するため、スポーツ実施率向上のための事業プラン及び動画を募集しています。

最終選考には古坂大魔王さんとオリンピック(予定)を審査員としてお招きする予定です。

また、長官賞の副賞として「1日スポーツ庁長官体験」を用意しており、一生に一度の特別な体験をしていただく1日をご提供させていただきますので、奮ってご応募ください！

スポーツ庁パブコンホームページはこちら

<https://pubcon3.mext.go.jp/>

* 受付期間: 令和元年10月17日(木)～令和元年12月26日(木)

* パブコン=パブリック・コンペティションの略